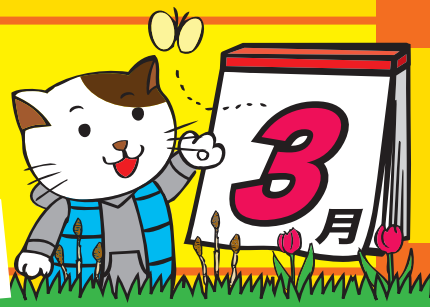


2016年

まーどっ!



食の道
ほそ道
草餅
(くさもち)

**3月3日のひな祭は
草餅の節句だった!?**

「摘み草」は江戸っ子の春の行事だった

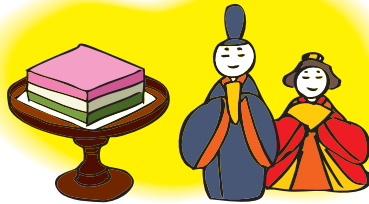
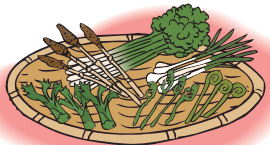
3月は萌えの季節。木々は芽を吹き、野の草ぐさは新しいみどりの葉を広げだします。春の陽光があふれるこの時期、江戸時代の人々は郊外の野に出て「摘み草」遊びを楽しみ風習があったとか。もともとは「踏青」という中国の行事に由来したもので、青々とした草を踏めば春の精気が取り込め、寿命が伸びると信じられていたようです。そして「摘み草」の中でもっともポピュラーだったのが「よもぎ」です。

緑色の菱餅はよもぎが原料

「よもぎ」はキク科の植物で、独特の強い香りや葉の萌えたつ緑が身を清め、邪気を払うとされ、古くから餅につき込んで草餅として食されてきました。3月3日のひな祭(上巳の節供)には紅・白・緑の3色を重ねた菱餅を供えてこども成長を祝う風習がありますが、緑色の餅は本来、よもぎの草餅を用いました。ひな祭は健康のシンボル、桃の花をあらわす紅白の餅にちなんで「桃の節句」ともいいますが、昔は「草餅の節句」とも呼ばれていたそうです。

もっと山野草に親しまおう

日本人は縄文時代の昔から山野草に親しみ、上手に活用してきました。気温が上がるこれからの季節、野にはふきのとう、ノビル、ツクシ、セリ、ニラなどの野草、山にはワラビ、ゼンマイ、タラの芽など山菜も姿を現します。他人の山や畑を荒らさない、乱獲しない、毒草に用心するなど摘み草のマナーを守って、ご家族でのんびり野遊びに出かけてみませんか。



**当店
おすすめ!**

吸う力はさらに強く、動かしやすく。
サイクロン式クリーナーの新型です。

春到来! お部屋のホコリを一掃しませんか。
日立の新クリーナーがお手伝いします。

1 日立はエコに ジェット吸引 をたし算
新しい空気の流れをつくり、強い吸引力で動かしやすい。

日立のエコ [ecoこれっきり] 運転で、床質や操作力に合わせてセンサーがパワーやブラシ回転数を自動でコントロール。

2 [小型・軽量ハイパワーファンモーター]と[パワーブーストサイクロン]で吸込仕事率
430Wの強力パワーで運転音55dB

3 軽く、ラクに使える日立独自のさまざまなくふう
ラクラク機能 **パワーブーストサイクロン**
日立サイクロン式クリーナー

日立サイクロン式
クリーナー

CV-SC700 紙パック不要

オープン価格★



ディープレッド (R) ディープシャンパン (N)

ちよつと
一服



**「孫の手」って
どんな手?**

背中のかゆい部分を搔くへら状の道具を「孫の手」といいますが、この名前、お孫さんの手になぞらえたものと思っている方はいませんか。答えは「ノー」。実は中国の神話に登場する「麻姑(まこ)」という仙女にちなんでいます。彼女は鳥のような長い爪の持ち主で、それを見た蔡経(さいけい)という男が「あの手で自分のかゆい背中を搔いてもらったらさぞ気持ちがいいだろうな」と無礼な言葉を吐き、罰せられたという逸話から生まれた言葉だとか。日本では「麻姑の手」が「孫の手」に転化、「かゆいところに手が届く」などの比喩にも使われていますね。

